

日本が2勝目で8強入りへ前進

チリとサモアを下す ラグビーW杯

ラグビーのワールドカップ（W杯）は9月8日にフランスで開幕した。1次リーグD組の日本（世界ランキング13位）は28日、トゥーラーズでのサモア（同12位）戦に28-22で勝ち、2勝1敗で勝ち点を9に伸ばし、2大会連続の8強入りへ前進した。

日本は第1戦のチリに快勝し、イングランドには敗れたが、この日の

勝利で10月8日の1次リーグ最終戦でアルゼンチンに勝てば、2大会連続の8強入りが決まる。サモアは1勝2敗で勝ち点6。日本は強敵サモアを相手に前半に2トライを決めるなど17-8とリード。後半はトライとペナルティーゴール（PG）で点差を広げ、相手の反撃を振り切った。日本のジェイミー・ジョセフ・ヘッドコーチは「私たちに与えられた大きな勝利。タフな試合だった。次の試合に向け、もっとやっていかなければいけない」と、アルゼンチン戦に向けてさらなる奮闘を選手に期待した。

イングランドは3戦全勝の勝ち点14で1試合を残してベスト8進出を決めた。決勝戦は10月28日。



日本-サモア。前半、先制のトライを決める日本代表のピーター・ラブスカフ選手（中央）



日本-チリ。後半、トライを決めるリーチマイケル選手（右から2人目）

バレーボール日本女子、五輪出場権持ち越し

来年6月まで残り5枠入り目指す

バレーボール女子のパリ五輪予選東京大会最終日は9月24日、国立代々木競技場で行われ、世界ランキング8位の日本は同4位のブラジルに2-1で競り負けた。これにより、日本は5勝2敗の3位となり、今大会2位以内に与えられる五輪出場権を獲得できなかった。世界ランキング1位のトルコが7戦全勝で1位、ブラジルが6勝1敗で2位となった。パリ五輪には12チームが出場できるが、東京大会を含めた予選大会3グループでそれぞれ上位2位に入った計6チームと開催国のフランスの出場が確定。出場5枠が残されており、来年6月の世界ランキングで出場確定チームを除く上位5位に入れば出場権を得られる。日本が世界ランキングを上げていくためには、今後の国際大会で好成績を残す必要がある。5連勝と好調だった日本は第6戦でトルコに1-3で敗れて初黒星。ブラジル戦では最終の第5セットまで持ち込む粘りを見せたが、勝ちきれなかった。

古賀紗理那主将は「この大会でパリの切符を取るのが最大の目標だったので悔しいが、チームが成長した部分もたくさんあった。来年に切符を取って、五輪でメダルを獲得できるように頑張りたい」と悔しさをこらえるように話した。



日本-ブルガリア。第1セット、バックアタックを放つ古賀選手

鹿児島特別国体の会期前競技開催

10月7日に総合開会式

特別国民体育大会「燃ゆる感動かごしま国体」の会期前競技は9月16日から24日まで鹿児島県内で開催された。実施されたのは、水泳、ローイング、バレーボール（ビーチバレーボール）、体操、レスリング、ゴルフの6競技。

競技では、成年女子100メートル平泳ぎで五輪3大会連続出場の渡

部香生子選手が優勝した。同100メートル自由形は、世界水泳代表の神野ゆめ選手が勝った。

体操団体総合の成年男子は開催県の鹿児島県が初優勝、水球の女子でも鹿児島は3位になるなど健闘した。

10月7日からは、総合開会式のほか陸上、サッカーなど32競技と特別競技の高校野球が行われる。来年から大会名称が「国民スポーツ大会」に変更されるため、同17日の最終日に長年親しまれてきた「国民体育大会」としては幕を閉じる。



体操競技



水泳競技

藤波選手が公式戦127連勝で優勝

レスリング世界選手権

来年のパリ五輪予選を兼ねたレスリングの世界選手権は9月16日から24日までセルビアのベオグラードで行われ、女子53キロ級で19歳の藤波朱理選手が2年ぶり2度目の優勝を果たし、公式戦の連勝を127に伸ばした。

藤波選手は優勝を決めた直後に、セ

を掲げて勢いよく試合場を一周。「優勝したら2人でしたいと思っていたので、それができてうれしい」と喜んだ。日本の女子は、五輪で実施される6階級のうち5階級でメダル（金4、銀1）を獲得。2021年東京五輪50キロ級金メダルの須崎優衣選手を除く4人が初の五輪代表となった。男子は5輪で実施される12階級のうち4階級でメダル（銀2、銅2）を獲得し、グレコローマンスタイル60キロ級の文田健一郎選手ら4人がパリ五輪代表に決まった。



女子53キロ級決勝で攻める藤波選手（左） AFP時事



男子グレコローマンスタイル60キロ級決勝でキルギス選手と対戦する文田選手（下） AFP時事